

令和元年度 第2回 学校評議委員会 記録

日時 令和2年2月19日(水)
13:30~15:50
会場 気仙光陵支援学校
司会 藤原副校長
記録 千葉副校長

【出席者】

<学校評議員> A評議員 (教育関係) B評議員 (卒業生関係) C評議員 (地域関係機関) D評議員 (進路先関係) E評議員 (地域関係)	<学 校> 校長 副校長 2名 事務長 教務主任 小学部主事 中学部主事 高等部主事 寮務主任
--	---

授業見学 13:30~14:00

- 1 開会のことば
- 2 校長挨拶
- 3 出席者紹介・・・上記出席者のとおり
- 4 協議

(1) 学校経営計画の実施状況について

【校長】令和元年度の重点に関して報告

(1) 個々のニーズに応じた児童生徒主体の授業づくりを推進する。

ア 教育的ニーズを的確に把握し、「個別の指導計画」の充実を図る。【学校評価90%】

※【 】内数値は職員自己評価で肯定的な回答の割合。以下同様

イ 基礎的環境整備に努める。【学校評価96%】

(2) 授業研究会、校内外研修等の充実を図り、授業力・専門性の向上を図る。

ア 常に授業改善(PDCA)に努め、教職員の授業力・専門性(ICTの活用)の向上を図る。

【学校評価90%】

イ 新学習指導要領への対応を図る。【学校評価75%】

(3) 各学部・学年・発達段階に応じたキャリア教育の充実を図る。

ア 現在及び将来の自立や社会参加に向けて、主体的に取り組める早期からのキャリア教育を小・中・高・寄宿舎の連携を図りながら計画的に実践する。【学校評価79%】

イ 職業教育や進路指導の充実を図るとともに、保護者・関係機関と十分な共通理解を図り、一人一人の進路実現を目指す。【学校評価90%】

(4) 地域に根ざした開かれた学校、信頼される学校づくりを推進する。

ア 保護者・地域・関係機関と連携し、教育活動の充実を図る。【学校評価90%】

イ ホームページ、学校評価、学校評議員会等により、開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを推進する。【学校評価90%】

(5) 交流校や地域との連携を図りながら交流及び共同学習の充実を図る。

ア 「交流籍」を活用し居住地における学習活動の一層の工夫と充実を図り、保護者や相手校と成果を共有する。【学校評価96%】

イ 学校間交流や地域交流の一層の工夫と充実を図る。【学校評価86%】

(6) 地域の特別支援教育の進展のため、特別支援教育センター的機能の充実を図る。

ア 校内外の知的財産を活用し、研修及び実践を図りながら特別支援教育の専門性向上を目指す。校外情報について校内職員にも情報提供をし、専門性を共有していく。【学校評価86%】

イ 特別支援センター校として地域の特別支援教育の充実と啓発に努める。【学校評価78%】

・・・特別支援教育セミナーなど学校を挙げて取り組んでいる。内容を吟味し充実させたい。

(7) 健康と安全な生活のため、健康・安全教育及び防災・復興教育を推進する。

ア 日々の健康観察、スクールカウンセラー、機関コンサルテーション等を活用し、心と体のケアを行う。
【学校評価92%】

イ 各学部に応じた健康・安全教育に計画的に取り組むとともにいじめの未然防止を図る。
【学校評価94%】

ウ 防災の知識や安全な生活について学び、「考える・行動する」ことができるよう防災教育の充実を図る。【学校評価86%】

エ 自己有用感を育みながら、多様な地域活動に取り組み、復興教育を推進する。【学校評価73%】

【各校務分掌の取り組み】

(教務主任、副校長、事務長) 資料のとおり

(2) 各学部・寄宿舎運営計画について

(各学部・寮務主任) スライドによる紹介

(3) 学校評価結果について

以下別紙のとおり

【質疑等】

○E 評議員

(学校経営計画の実施状況に対して) 職員の自己評価が低いものもだしているのがあるがたい。

○E 評議員

(支援部に対して) 地域の幼保・小・中学校に対する支援だけではなく、広く高校側にも周知してほしい。

<回答>

特別支援教育セミナーなど高校側にも案内し参加を頂いているところ。前年度までは高校での相談実績もある。

○E 評議員

(進路指導部に対して) 早期離職について、学校側の授業において、就職先の企業のあった作業や学習など双方向からの連携が必要と感じる。

<回答>

就職に関してはジョブコーチを活用しながらの就業支援などを行っている。

○B 評議員

(進路指導部に対して) 卒業生のアフターケアに関して、職場からの依頼で出向くのか、保護者からの依頼で出向くのか。

<回答>

就業・生活支援センターや相談支援専門員からの情報で出向くことが多い。

○B評議員

(就業の様子などについて) 卒業後の情報共有の場が欲しい。同窓会があっても(同窓生が)来ないのが寂しい。

<回答>

1月に成人を祝う会などがあっても参加人数はそんなに多くない。「@かたつむり」主催だと参加に戸惑う保護者もいる。

○B評議員

(総務部に対して) P T A活動への参加について、参加者が固定している、ということだが、児童生徒の減少も関係しているのだろうか。かつてはP T A活動はあまり減らさないで欲しい、という要望もあった。いくつか活動がある中で参加できるものを選べるような配慮も必要かと思う。保護者間のネットワークの構築を進めたい。保護者と先生方とのコミュニケーションを図る場があってもいい。

<回答>

高田のふれあい祭りなど、地区P T Aに利用するなども考えられる。

5 報告

(1) 令和元年度の進路状況について

別紙のとおり

(2) コンプライアンス結果について

別紙のとおり

【助言】

○A評議員

日めくりカレンダーや、「〇〇鬼」(自分の中の退治すべき鬼)などの掲示をみると心の教育を実践していると感じる。特別支援教育の充実は中学校現場にいたときから強く感じていたところ。本校の果たす役割は大きい。P D C Aに関して、職員の自己評価が低いことに関しては、新年度の前にどうアップできるか検討すればよい。学校の体制については今やっている事を充実させてもらえればよい。できれば県に定数増やコーディネーターの配置をお願いして関係機関と連携強化してもらいたい。本校とは30年近くのお付き合い。先生方が元気がよい。いい表情をしている。

○B評議員

生徒の状況は年々変わる。卒業しても協力できることはやる。先生方だけでできないことは協力する。

○C評議員

先生方がとても丁寧で笑顔が多い。「安全・安心」「支援計画」「情報の共有」「共通理解」といったあたりをキーワードに教育実践を進めていると感じた。うちの施設でもカンファレンスをやっているが劇的に変化することはない。日々の積み重ねが大事。新型コロナウイルスの報道が多いがうちのグループでも東京出張等どうしようか検討している。

○D評議員

丁寧な指導。企業側ではここまでやっていない。実習を重ねることで技能が上がる。どんどん取り組んで欲しい。企業側も生徒を見て採用を判断できる。1回の実習では分からない。「働き方」に関して、人を育てる、というところに苦労している。障がい者や高齢者、外国人の雇用も増えているが、単純作業は機械にとって変わられる時代。色々な方が取り組める業務の提供を模索している。雇用の

受入に関して相談して欲しい。

○E 評議員

地区公民館で様々な学校と関わりを持っている。地域から学校への働きかけで、学校側に忙しい思いをさせたくはないので学校から地域に積極的に声をかけて欲しい。

(任期満了の評議員の方を副校長より紹介、校長より協力いただいたことへの挨拶)

5 閉会のことば